

高崎市文化財調査報告書第117集

石原鶴辺団地Ⅰ遺跡

市営住宅建替えに伴う埋蔵文化財調査概報

1991

高崎市教育委員会

序

高崎市は近年、土地改良・工業団地造成・住宅団地造成事業等の大規模開発や民間の開発が急激に進められており、地域の自然環境・歴史的環境が大きく変貌しております。それに伴って失われていく埋蔵文化財の緊急発掘があいつづき、止むを得ず記録保存という形で後世に残す結果となっております。

本書が報告する「石原鶴辺団地Ⅰ遺跡」の存在する高崎市南西部も近年、城南大橋の開通・区画整理・住宅団地造成事業等の開発が進められている地域であります。本書は、石原町の市営鶴辺住宅団地の建て替え事業（2年計画の1年次）に伴って実施した発掘調査の報告書であります。

発掘調査中は猛暑の中、古墳時代の住居址や土壇等が検出され、新たに地域の歴史解明に貴重な資料が得られたことと思います。

最後に、調査実施にあたり、御協力、御指導をいただきました関係諸機関、地元関係者ならびに発掘作業に従事してくださった皆様に深く御礼を申し上げますとともに、担当職員の労をねぎらい序といたします。

高崎市教育委員会
教育長 茂田治男

例言

1. 本書は、市営住宅（鶴辺団地）の建て替えに伴う埋蔵文化財の調査概報である。
2. 遺跡は、高崎市石原町字鶴辺3550-2番地に所在する。
3. 発掘調査は、高崎市教育委員会の直営で実施した。
4. 調査組織 文化振興課埋蔵文化財係
〈事務局〉 鈴木 豊 石井忠樹 土屋秀夫 設楽義子
〈調査担当〉宮寺 久 志田 登
5. 調査期間は、準備・発掘・整理期間を含めて、1991年4月1日～1992年3月31日である。
6. 本書の編集・執筆は宮寺・志田が行い、遺物の実測・挿図の作成は田村睦・田村真穂が行った。執筆分担は下記の通りである。
Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ－(1) 宮寺 Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ－(2) 志田
7. 発掘に際しての表土掘削は井上工業株式会社、基準杭の設置は株式会社横田調査設計にそれぞれ委託して行った。
8. 発掘調査にあたり、建設部建築住宅課・地元関係者の方々に御協力をいただいた。
9. 本遺跡は、高崎市教育委員会発掘調査の遺跡番号で194になる。
10. 遺物及び図面等の資料は、高崎市教育委員会が一括して保管している。

凡例

1. 遺構は下記の記号で表記した。
S A→竪穴住居 S K→土壇
2. 遺構平面図の北方向は座標北であり、座標系は国土座標第Ⅸ系である。
3. 遺構平面図には各図スケールを付し、縮尺を表わした。
4. エレベーション図の標高単位はメートルである。
5. 本書中の遺跡地図は国土地理院25000分の1地形図、周辺の地形は高崎市2500分の1都市計画図を使用した。
6. 遺物観察表の色調は「標準土色帖」を参照して決定し、その記号を付した。

目次

序文

例言・凡例

I 調査に至る経緯..... 1

II 周辺の地形と遺跡..... 1

III 調査の方法と経過..... 3

IV 基本土層..... 3

V 遺構と遺物..... 5

(1) 2号住居址..... 5

(2) 1号土坑..... 7

(3) その他の遺物..... 7

挿図目次

図1 周辺の遺跡地図..... 2

図2 周辺の地形と調査区..... 2

図3 任意座標と国土座標関係図..... 3

図4 基本土層図..... 3

図5 全体図..... 4

図6 2号住居址平面図..... 5

図7 2号住居址遺物実測図..... 6

図8 1号土坑平面図..... 7

図9 その他の遺物..... 7

表目次

表1 遺物観察表..... 6

I 調査に至る経緯

西暦2000年に市制100周年を迎える高崎市は第3次総合計画を発表し、その中で豊かで快適な市民生活を築くために「交流拠点都市たかさき」の建設をまちづくりの目標とした。

高崎市建設部建築住宅課では総合計画発表前より、老朽化し入居希望者の少ない市営住宅を取り壊し、市民の要望に答える快適な市営住宅の建設を実施している。市営鶴辺団地も老朽化が著しく、建築住宅課では平成2～4年度にかけて2期に分けて平屋から3階建てへの建て替えを計画した。

小高い丘陵地にある鶴辺団地はその周辺を含め遺跡の多い地域である。団地造成時には鶴辺遺跡が確認されており、市営住宅建て替え予定地においても同様に存在したと思われる。しかし団地造成時に既に掘削され埋蔵文化財が破壊されていることも予想され、また遺構面近くまで掘削されている場合住宅取り壊し時に破壊されることもあるので、取り壊し前に第1期予定地区の試掘を実施した。その結果遺構の存在を確認したため、建築住宅課、市教育委員会で協議し、7月より教育委員会直営事業として調査を実施した。

II 周辺の地形と遺跡

本遺跡の所在する石原町字鶴辺は、高崎市の南西部、東南流する烏川の右岸の観音山丘陵の舌状台地上に位置している。北には、平坦部に出て天井川となる雁行川が東流し、烏川と合流している。本遺跡の北方の丘陵裾部は、石原稻荷山古墳（図1－5）をはじめとする古墳群が存在したが、急激な市街化が進み、市指定の三島塚古墳（図1－6）などわずかな古墳が残るだけである。また、台地上の隣接の鶴辺団地の南辺には、市指定の桜塚古墳（図1－4）をはじめとして、30余基の古墳が存在していた。

昭和36・37年当時、本遺跡周辺は桑園であった。ここに、高崎市立農業センター・東京農業大学第二高等学校・鶴辺団地造成が計画された。その整地作業の際に、古墳時代中期～後期の大集落（鶴辺遺跡・図1－2）が確認されたが、十分な記録も残されぬまま破壊されてしまった。本遺跡の西側、品庄川を挟み位置する寺尾中台遺跡（図1－3）では、平成2～3年と発掘調査が実施され、古墳時代～平安時代の大集落が検出されている。

1. 石原鶴辺団地I遺跡

4. 桜塚古墳

7. 石原葭田遺跡

10. 金井沢碑
2. 鶴辺遺跡

5. 石原稻荷山古墳

8. 寺尾中城址
3. 寺尾中台遺跡

6. 三島塚古墳

9. 寺尾茶臼山城址

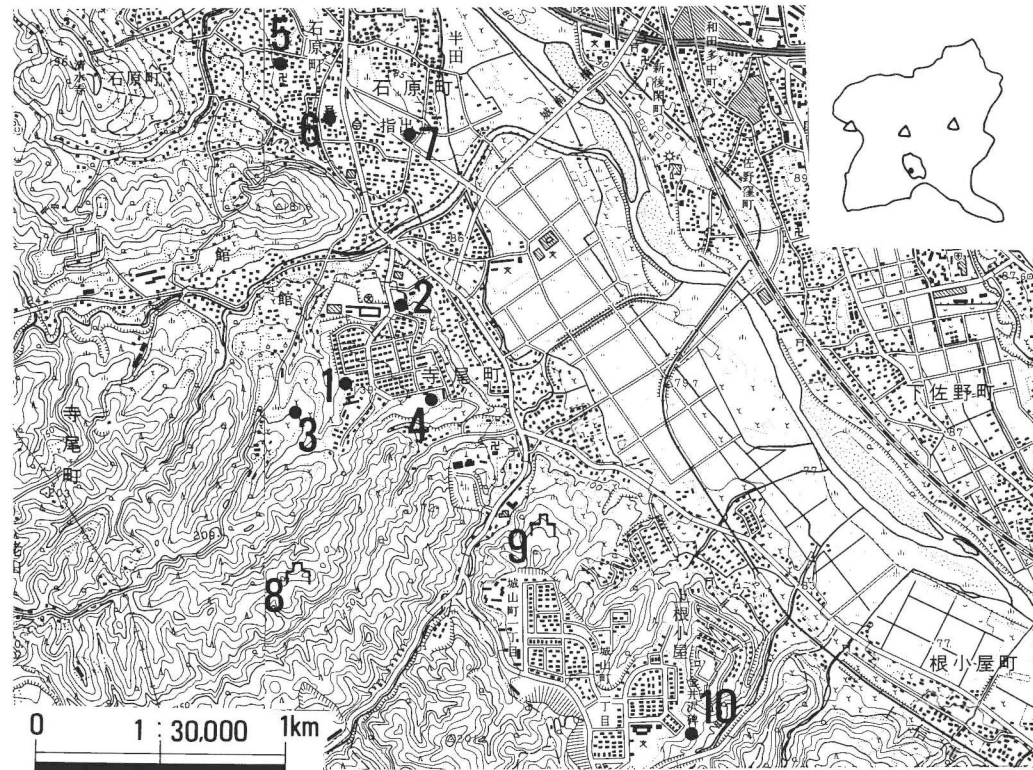


図1 周辺の遺跡地図



図2 周辺の地形と調査区

Ⅲ 調査の方法と経過

今回の調査は市営住宅第一期建て替え地区を対象とした。試掘の結果、対象区南側は団地造成時の掘削がローム層以下まで達しているため遺構は残存しておらず、調査区を住居址が残存した北側に限定した。北側においても北東部はローム層近くまで掘削されていたが、北西部は逆に盛土されていたため重機により掘削を行った。

調査は、調査区内に任意座標系、ベンチマークを設置し、それらに基づき実施した。任意座標系と国土座標Ⅸ系を照合すると、任意座標原点は国土座標 $X = 33035.792$ $Y = -74517.139$ にあたり、軸方向は $11^{\circ}55'10''$ 国土座標よりずれていた。任意座標系を (x, y) 、国土座標Ⅸ系を (X, Y) とすると2座標の関係は次のようになる。

$$X = x \cos \alpha + y \sin \alpha + 33035.792$$

$$Y = -x \sin \alpha + y \cos \alpha - 74517.139$$

$$\alpha = 11^{\circ}55'10''$$

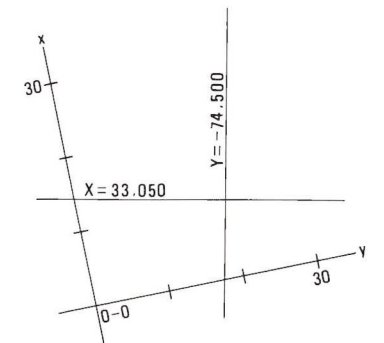


図3 任意座標と国土座標関係図

5月17日	試掘実施	8月6日	任意座標系、ベンチマーク設置
7月25日	器材等搬入、調査準備	8日	平面図実測開始
26日	遺構確認作業開始	9日	任意座標を国土座標Ⅸ系と照合
30日	重機を導入し、掘削を開始		任意ベンチマークの標高確認
8月2日	調査区西側(盛土部分)精査開始	8月20日	重機による埋め戻し作業開始
6日	調査区東側(住居址確認部分)精査開始	22日	埋め戻し終了、現地作業終了

Ⅳ 基本土層

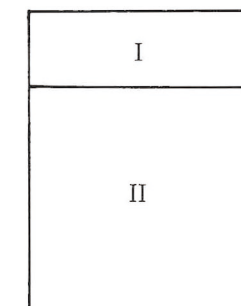


図4 基本土層図

- I 褐色土 ローム層に及ぶ削平後、10cm前後の厚さで盛られた土
- II 黄褐色土 ローム層

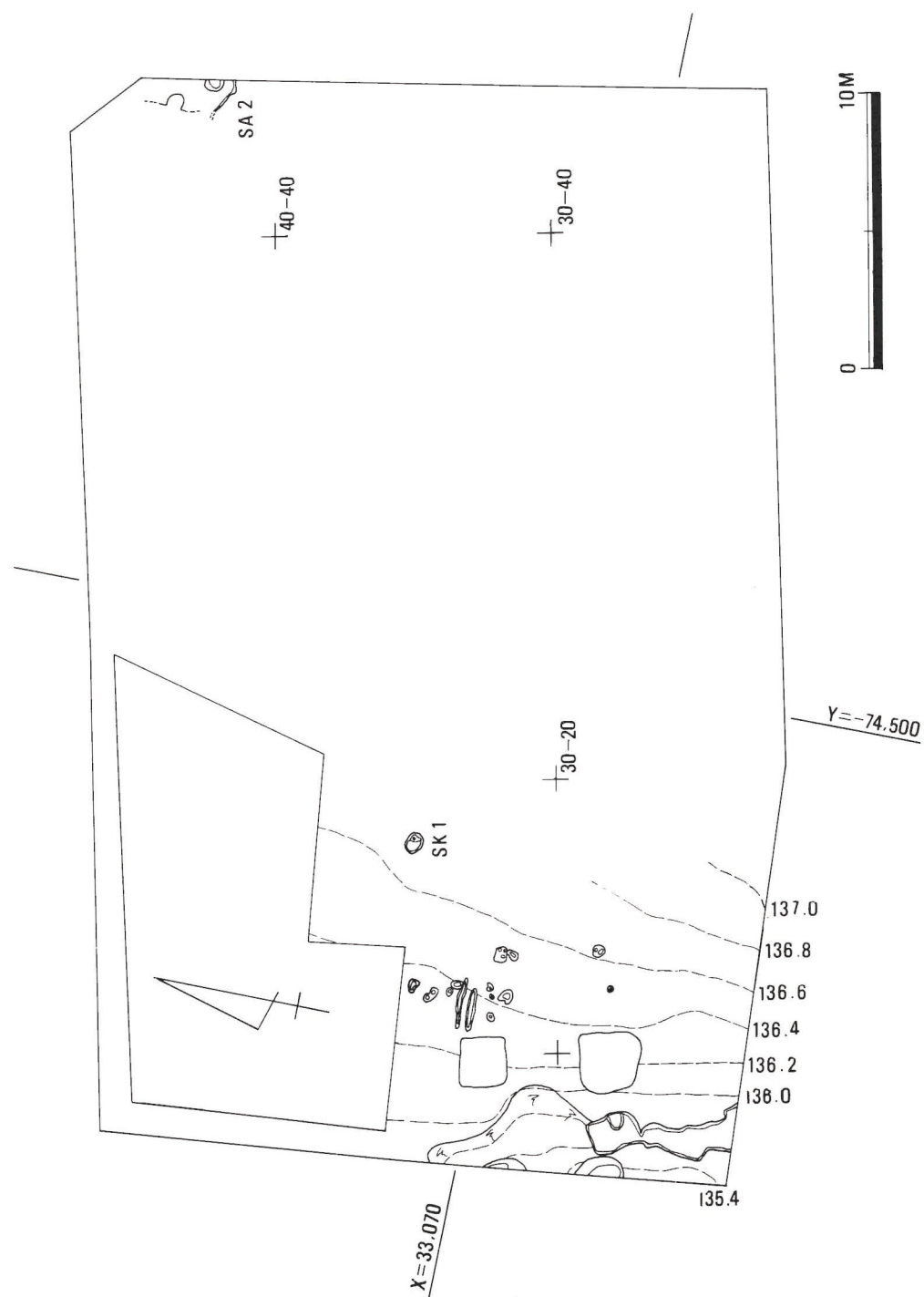


図5 全体図

V 遺構と遺物

(1) 2号住居址

本年度の調査の対象地は、市営住宅建設に伴う造成により、ローム層まで削平されていた。特に南辺では残存のローム層がうすく、灰白色シルトがすぐに露出してしまうほどである。北辺では、ローム層までの削平が他の場所に比べ浅く、カマドと考えられる焼土の跡（1・3号住居址）が確認されている。また、床面的一部分と考えられる場所もところどころに確認され、多数の住居址が存在していたと考えられる。

2号住居址は、調査区の北東に位置し、1号住居址のカマドに切られている。残存状況は極めて悪く、南壁の一部分と貯蔵穴が確認できただけであった。確認面より床面までの壁高は、5 cm前後である。

貯蔵穴は、住居址の南東隅に築かれている。規模は、半分しか検出できなかったが、短軸約66cm・深さ約40cmの楕円形を呈していると推定される。

遺物は、土師器甕・坏・須恵器坏等が出土している。



図6 2号住居址平面図

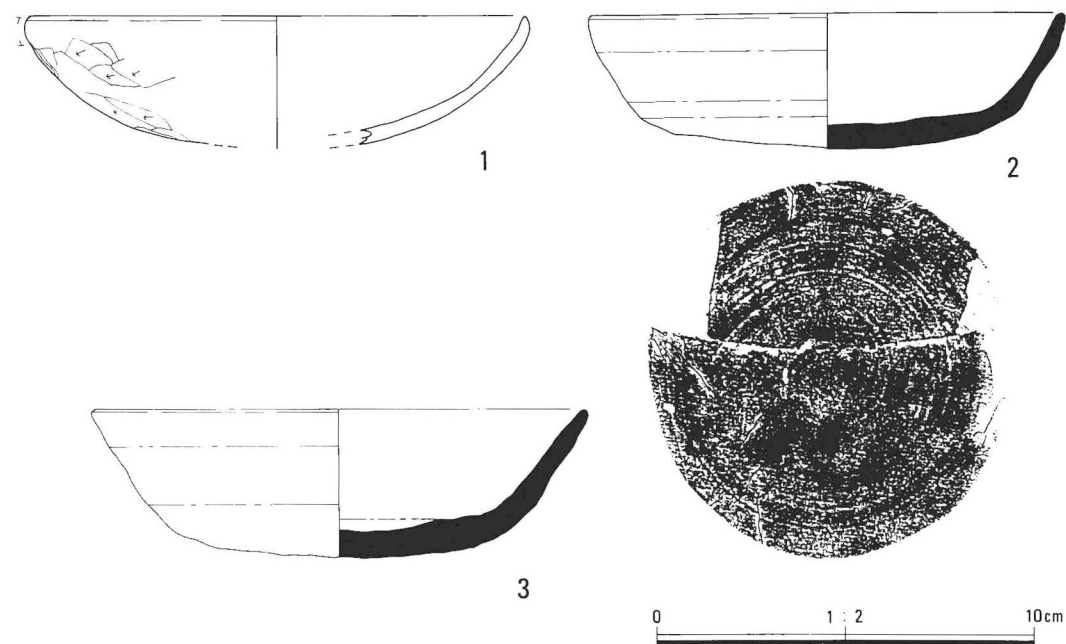


図7 2号住居址遺物実測図

表1 遺物観察表

器種	図面番号	法量 (cm)	胎土・焼成・色調	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	備考
坏土師器	1	- 口径 13.4 (推定) - 器高 3.5 (推定)	- 橙色 (5YR6/8) - 焼成 良好 - 微細な黒色鉱物砂粒を含む	底部はゆるやかな丸底を呈し、内湾しつつ立ち上がる。	- 口縁部 ヨコナデ - 体部 ヘラケズリ	口縁部～体部 ヨコナデ	片残存
坏須恵器	2	- 口径 12.6 - 器高 2.6	- 灰白色 (7.5Y7/1) - 焼成 良好 - 微細な砂粒含む	- 口縁部は立ち上がりつつわずかに外反する。 - 底部はわずかに丸味をもち、ゆるやかに内湾しつつ立ち上がる。	- 体部～口縁部 ロクロナデ - 底部 回転ヘラキリ後 回転ヘラケズリ調整	ロクロナデ	口縁部 片欠損
坏須恵器	3	- 口径 13.2 - 器高 3.9	- 灰色 (7.5Y6/1) - 焼成 良好 - 砂粒含む	- 口縁部は立ち上がりつつわずかに外反する。 - 底部はわずかに丸味をもち、ゆるやかに内湾しつつ立ち上がる。	- 体部～口縁部 ロクロナデ - 底部 回転ヘラ切り後 ヘラナデ (補修痕か?)	ロクロナデ	口縁部 片欠損

(2) 1号土坑

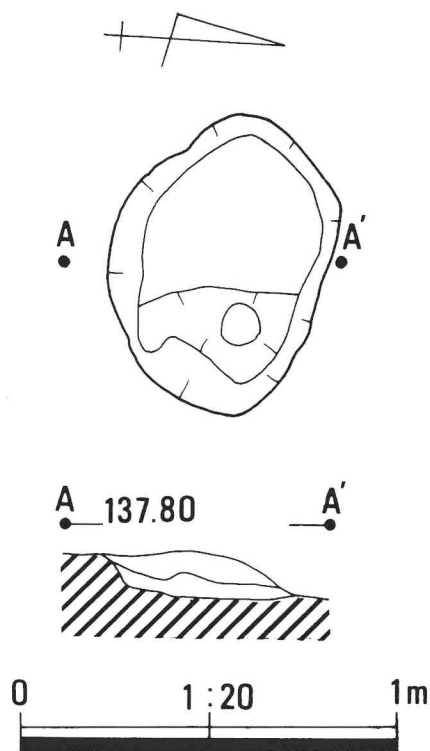


図8 1号土坑

(3) その他の出土遺物

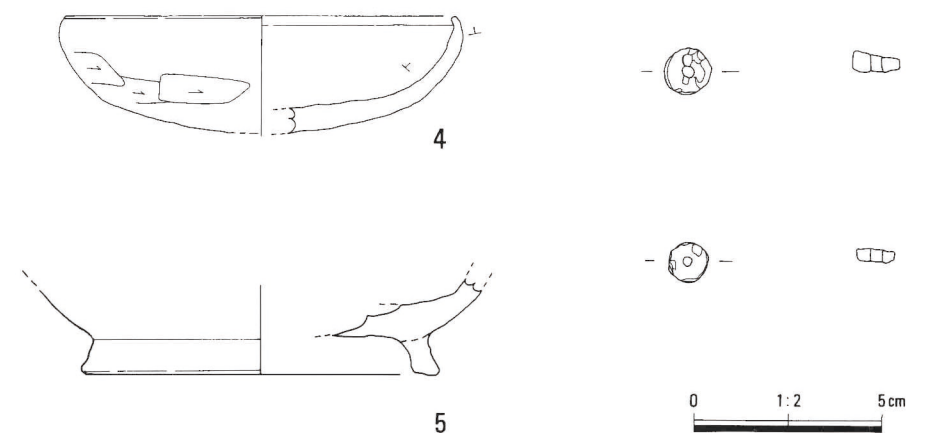


図9 その他の出土遺物

本遺構は調査区内北西部、盛土された斜面上にある。規模は東西約80cm、南北約60cmで不整形な楕円形を呈する。深さは確認面より約15cm程度の浅いものであった。底部は東側が一段深く掘られており、全体的にも多少の凹凸がある。覆土は上層で炭化物を多量に含む層が存在し、土坑全体を覆っていた。土坑内からは覆土中を含め遺物の出土はなく、時期の限定は難しい。また用途においても不明である。

- I. 黒褐色土層 細砂に多量の炭化物が混入し、固くしまる。
II. 茶褐色土層 ローム粒、炭化物を含む。



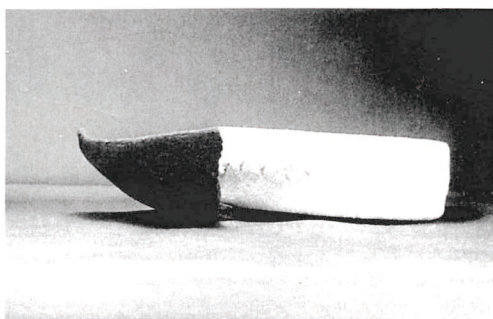
調査前風景



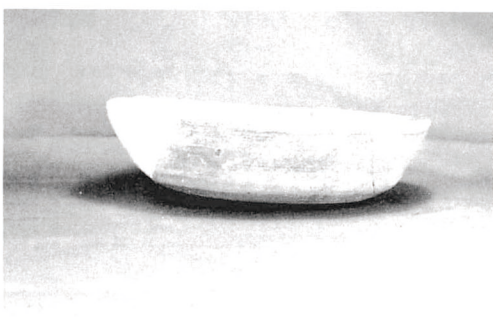
1号土坑



2号住居址遺物出土状況



遺物 No. 1



遺物 No. 2



遺物 No. 3



遺物 No. 4



遺物 No. 5

後 記

猛暑の中の発掘作業や寒風吹きすさぶ中プレハブ内での整理作業等悪条件にもかかわらず、無事調査を終了できましたのも、ひとえに調査に従事された皆様の御協力があったればこそと、深く感謝しております。ここに御芳名を記します。(敬称略)

石原 義雄・井田 裕・野口 栄一・野口 たかね・塚本 福代
田村 真穂・田村 睦

高崎市文化財調査報告書第117集

石原鶴辺団地Ⅰ遺跡

平成4年3月 印刷

平成4年3月 発行

編集者 高崎市教育委員会
文化振興課埋蔵文化財係

発行者 高崎市教育委員会

印刷所 野島印刷有限公司